２０２２年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦
大会運営ガイドライン

Ⅰ．はじめに

本ガイドラインは新型コロナウイルス感染症拡大における大会開催の際の取り組みについてまとめたものです。本リーグ戦は２か月もの間開催されるため、大会会場だけではなく日常生活や練習の段階から十分注意する必要があるため、参加者や関係者の安全を最優先に大会に運営して頂くようお願い致します。
リーグ戦を開催するにあたり、公益財団法人日本バレーボール協会による「バレーボール競技に関わる大会等の再開時のガイドライン」を遵守すること。
また、本資料は、「試合開催におけるガイドライン」と踏まえ、大会参加者及び大会運営者は熟読するようにしてください。

Ⅱ．感染リスクについて

（１）バレーボールにおける感染のリスク

バレーボールは競技者自身が相手と接触して行う競技ではないが、１つのボールを介して競技を行う。そして１コート（１８m×９m）の中に１２人のプレーヤーを含む為、試合をした選手全員が濃厚接触者となる可能性が高い。また、直近の試合のチームメイト、対戦相手に感染者が出た場合、チーム全員が濃厚接触者となる可能性が高くなり、経過観察が必要になる事が考えられる。

（２）選手個人のリスク

高強度・長時間の運動により、免疫機能が一時的に低下することが知られています。
新型コロナウイルス感染症に対する免疫応答は現在研究が進められている段階で不明な点が多々ありますが、これまでの風邪対策の知見を参考にすると、激しい運動による免疫機能の低下は可能な限り避ける、もしくは低下後の免疫機能の回復を促進させることが重要である。
一人ひとりの基本的感染対策（３つの基本）を徹底すること。

①身体的距離の確保
②マスクの着用
③手洗い、手指消毒

（３）リスクの予防について

感染リスクに伴い、大会参加者及び運営者はここで示す、ガイドラインを遵守すること。
また、通常の公式戦に近い形で試合を設定するが、コート設営や試合時間の設定など感染対策を第一に行うこととする。
また、個人の取り組みとして、こまめな手洗い・うがい・消毒の実施に協力すること。

Ⅲ．大会の開催について

大会開催・中止判断について

大会開催条件

・参加チームのエントリーが正規にされていること。

・参加チーム及び会場で感染症対策が十分に行われていること。

・運営代表者及び参加者が本ガイドラインを遵守していること。

大会中止判断

・学連役員及び関東理事会が続行不可と判断した場合は中止とする。

未消化試合の取り扱い

・未消化試合については土日または平日を使用し極力全試合消化を目指すものとする。

Ⅳ．大会関係者のコロナウイルス感染症対策について

（１）関係者全体

【大会期間前の対応】

大会運営関係者・チーム関係者には

①ONETAP SPORTS を使用し、大会２週間前から２週間後までの体温を記録する。

（８月２０日以降）

②新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを推奨する。

※COCOA については正常に動作するよう設定を行っておくこと。

以上による、体調管理を行うこととする。

【大会期間時の対応】

大会期間中の体調不良者、また感染症発症者（新型コロナウイルス、インフルエンザ等）が出た際、下記報告窓口へ速やかに報告すること

報告窓口　　(一財)関東大学バレーボール連盟　感染症対策窓口 mail：health@juvf.jp

TEL：080-7024-8970

※感染者が確認された場合、その確認当日に学連の各部担当者から使用会場の事務局及び対応窓口にご連絡致します。

※大会期間について入替戦に出場しなかった場合、リーグ最終試合終了後より２週間後までとする。

【大会参加者へ向けた対応】

①ONETAP SPORTS を使用し大会２週間前(８月２０日)から終了後２週間までの体温を記録すること。また大会前２週間分のデータをまとめて出力し、大会前日の金曜日 18：00 までに vital@juvf.jp に送信すること。

（リーグ戦初戦の場合、２週間分をまとめて前日の金曜日に送信する。２週目以降の場合、１週間分をまとめて前日の金曜日に送信する）

②大会前２週間における以下の事項の有無（全員分）

ア　咳の有無

イ　咽頭痛の有無状態

ウ　頭痛の有無

エ　体のだるさ

オ　嗅覚・味覚の状態

カ　家族・同居人の発熱および気になる症状

⇒ 該当する項目がある場合、勇気をもって参加を控えること

③大会当日の体温（全員分）※３７．４度以下であること

【会場入場時について】

・入場の際には必ずマスクをしていること。また、入り口の消毒液を使用し手指の消毒を行い入場すること。この時、ID がある場合は持参すること。

・入場したら、受付に行き検温を済ませること。

・検温を済ませたら速やかに、自チームの待機場所へ向かうこと。

※移動経路については運営者からの指示に従うこと。

会場入場時に体温が３７．５度以上あった対象者に対しては以下の通りとする

①再度体温を測り直し、それでも３７．５度以上の場合、会場に入場させないこと。

②自宅（宿泊先）に一人で戻り待機すること。

③帰宅後また翌朝以降も熱が下がらない場合には、保健所に連絡の上指示に従う主務は、当該者について帰宅後と翌朝の体温を学連に連絡すること。

④一緒に来場した選手等に関して、上述ア～オの症状がない場合は入場を認める。

⑤熱を出した大会参加者が PCR 検査陽性であった場合は、保健所の指示に従う。PCR 検査陰性の場合は、体調の経過によっては医師や監督の判断で参加も可能とする。

（２）チーム関係者

【会場入場者の制限について】

・当日会場に入る事が出来るチーム関係者に制限はしない。

・他チームのデータ収集について、以下の制限を設ける。

他コート、他会場においてデータ収集を行う場合、３名以内で行うこと。

※データ収集については、感染症対策に十分配慮しながら行うこと。

【入構者リストの提出について】

・入構者リストの提出について、以下の通りで実施すること

・自チームが試合を行う会場に入場する場合提出は必要ない。

・データ収集等で自チームの試合会場とは別の会場に入場する場合、別会場に入場する方分の記入をした入構者リストを入場する会場に提出すること。

※会場側の要望により入構者リストが必要になる場合は、自チームの試合会場であっても用意、提出すること。

※例外として、補助役員等で自チームより早く会場に入る者は入構者リストを人数分作成し提出すること。

【入場時刻について】

入場時の３密を防ぐため、以下の時間を設定する。

※ただし会場によって異なる場合もある。

バスの使用による関係で選手及び学生が会場に早く着いた際には、
補助役員及びデータ収集にあたる学生は速やかに移動すること。
その他の学生については第１試合のチームと入場時間と被らないよう、少しずらし指定待機場所で待機すること。

【試合時の注意事項】

〇全員マスクを正しく着用すること。

※例外として認めるのは、コートに入って試合を行っている選手（6名）のみとする。

コート内において試合を行っている選手についても着用してもかまわない。

※飛沫拡散防止の観点から不織布のマスクを推奨とする。

〇ギャラリー席では、マスクの着用を必須とする。また、必ず１席空けて着席する事。

※ギャラリー席、ベンチ共に、発声、動作、接触を伴う応援を禁止とする。

立ち位置や座席の位置によって人との空間をとり、熱中症対策としてこまめに水分補給は行うこと。

〇控え室及びギャラリーは、各チーム割り当てられた場所を使用すること。

※それ以外の場所を使用したい時は、学連に相談すること。

・使用した座席、場所は可能な限り消毒を行うこと。
※使用した場所は最後まで責任を持って、処理をすること。

・ゴミは会場に捨てずに、各自で必ず持ち帰ること。
※鼻水、唾液などが付いたゴミを処理した後は、手洗い・消毒を行うこと。

【控え室、更衣室等の使用方法】

・密集しないように、各チーム少人数で使用すること。

・昼食前後には必ず手洗い・うがい・手指の消毒を行うこと。食べる時は人との距離をとり食べること。
その際、マスクは衛生的に管理し放置しないこと。

・ゴミなどは残さず、可能な限り使用したところを各自で消毒すること。

【競技上の注意事項】

・待機場所は必ずギャラリーの指定された場所か、指定された控え室で待機すること。ウォーミングアップはスペースがあっても行わないこと。(ストレッチ等は可)

※ウォーミングアップに関して、発声を伴うランニング、ダッシュ系のアップ、ボールの使用等を禁止とする。

・フロア開放時は、入り口の混雑を防ぐこと。

≪第２試合目以降のチーム≫

・第２試合目以降のチームは受付で検温終了後、速やかに待機場所へ向かうこと。

・前の試合が終わっても、フロア開放の指示があるまでギャラリーで待機すること
（試合終了後の選手との接触は避けること。）

・ベンチスタッフ及びモッパーは必ず、人との距離を取ること。

・タオル、ボトル、アイシングバッグなどの共用を禁止とする。
・原則、シューズの裏を手で拭かないこと
（自チームベンチ横に濡れ雑巾などを用意していいが、その際、競技中のけがに繋がらない事や、使用後の後処理も必ず行うこと）
・競技中のハイタッチをできるだけ控えること。
・試合開始時の挨拶は、両コートエンドライン上で行うこと。（ネット付近に集まり、握手などはしない）
・ベンチは最大７席とし、となりの椅子との距離を最低１席分は開けること。
・応援者は間隔をとり、マスクを着用すること。

【試合終了時の注意事項】
・終了後の換気・消毒作業中は試合チームのクールダウン時間とする。
・学連からのフロア撤退のアナウンス後は一斉にコートから出ずに、出入り口の３密を防ぐこと。
・ミーティングを行う際は、３密を避けて行うこととする。
・試合終了後、速やかに会場から出ること。
・ゴミは会場に捨てず、各自で必ず持ち帰ること。
鼻水、唾液などが付いたゴミを処理した後は、手洗い・消毒を行うこと。
・大会終了後２週間まで健康チェックを行うこと。
なお終了後２週以内に新型コロナウイルスの感染が判明した場合は、学連窓口まで速やかに報告すること。

（３）企業関係者

・申請書と大会２週前から記入した体調チェックシートを、大会当日受付にて提出すること。
・受付にて、検温・ID を受け取り会場へ入ること。
・チームの待機場所以外の場所でマスクを着用し試合を観覧すること。

（４）報道関係者

・申請書と大会２週前から記入した体調チェックシートを大会当日受付にて提出すること。
・受付にて、検温し会場へ入ること。
（配信を行う企業は学連に相談し会場との兼ね合いを含め、必要最低人数で行うこと。）
・インタビューをする際は、可能な限り電話等の接触しない方法で行うこと。
なお、直接行う場合はマスクを着用の上、十分な距離を保ち行うこと。

（５）審判員

・会場入場時に検温をし、当日の体温を記入した健康チェックシートを受付に提出すること。
・新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを推奨とする。
・ミーティングの時間は試合開始時刻の１時間前とする。
・ミーティングを行う際には、３密を避けて行うこと。
・可能な限り、主審・副審を派遣して行うが、派遣が難しい場合は、補助役員に該当する

チームの有資格者が審判を担当することもある。
・主審、副審を行う者はマスクを着用すること。またセット間に手指の消毒を行うこと。

それぞれ以下のように対策、対応を行う。

〇主審・副審　→　笛の上からマスクをすること。ホイッスルカバーも可。
〇ラインジャッジ　→　各大学でフラッグを持参する。
〇スコアラー　→　各大学で筆記用具（青ペン・定規・修正・シャーペン・消しゴム等）を持参すること。接触箇所（机、椅子、ＰＣ、マウス）においては、セット間及び試合間にこまめに消毒を行うこと。
〇ボールリトリバー　→　手袋を持参、着用し雑巾を使用して、ボールの拭き取りを常時行う。
〇クイックモッパー　→　手袋を持参、着用し各チームで用意した雑巾を利用し汗の処理を行う。

Ⅴ．運営者の対策

（１）会場入場及び受付時
・大会参加者の検温の実施
・入り口の常時開放を積極的に行い、換気に努める
・各種許可証の貸出禁止（企業 ID はリーグ開始前・使用後に毎回消毒する）
・使用物品（筆記用具、机等）についてはこまめに消毒をする。
・第２試合目以降のチームが入場し始めた際、控え場所（待機場所）の声掛けを行う
・第２試合目以降のチームがウォーミングアップを行わないよう、受付で声をかけ、必ず、待機場所での待機を促す。

（２）コート設営・試合設定
・１コート最大６チームの使用とする

	入場可能時刻	フロア開放時刻	試合開始時刻
１試合目	8:45	9:15	10:00
２試合目	11:15	11:45	12:30
３試合目	13:45	14:15	15:00

（３）競技運営時
・試合開始時の挨拶は、両コートエンドライン上で行うこと。（ネット付近に集まり、握手などはしない）
・ベンチは最大７席とし、スタッフの椅子との距離を最低１席分は開けることとする。
・ウォーミングアップエリアは、会場によって異なるが、最低でも１６㎡以上の空間を作ることとする。(控え選手が密集しないようにする為)
・セット間で、チーム関係者の手指や試合球、筆記用具などの消毒を行う

（４）競技終了後

・試合終了後、速やかに次の試合についてのアナウンスを行う

・使用した消毒用具・ビニール手袋等をまとめ、別途ゴミ袋に捨てる。

・試合後の手洗い・消毒の呼びかけを行う

・補助役員に手伝ってもらい、ビニール手袋を着用し消毒作業を行う。

（点示・ボール・モップ・審判台・ネット・机等、その他使用した箇所）その間、次の試合のチームをフロア内には入れてはいけない。

（５）控え室・更衣室等の設置方法

・選手が使用する控え室の大きさにより、人数を制限し密集させないようにする

・常時、開放できる窓やドアを開けておく。

・机や椅子などの配置を工夫し、１．５～２ｍの距離を確保する

・学連が消毒液を設置する。

（６）会場の環境整備

・会場の出入り口、フロアの出入り口等に消毒液の設置

・トイレ・手洗い場に石鹸・ペーパータオル・ペーパータオルを捨てるゴミ袋の設置

（時間を決めて定期的に交換を行う）

・使用する部屋のドアノブ、机、椅子やギャラリーの手すり等、共同使用部分は 定期的な消毒を行う

・ゴミを扱う際はビニール手袋を必ず着用の上、処理を終えたら手洗い・手指の消毒を行う。

・会場の動線を作成し、選手関係者と観客が混在しないように心がける。無観客の場合も動線を作成する。

Ⅵ．移動及び食事時について

（１）個人での移動について

移動の際は、個人単位での予防対策を徹底してください。

公共交通機関の利用では、混雑を避け、会話を控える等の工夫を行うこと。

また、車での移動においても車外に出る際にはマスクの着用する等注意すること。

（２）食事について

座席を開け、正面の配席を回避すること。また、食事は一人ずつ取り分けた状態で用意し食事中の会話は控えるようにすること。

参考文献

●公益財団法人日本バレーボール協会

「バレーボール競技に関わる大会等の再開時のガイドライン」

https://www.jva.or.jp/pdf/covid19_guide_JVA2020.pdf

「大会運営ガイドライン」

●独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター
「新型コロナウィルス感染症対策としてのスポーツ活動再開ガイドライン」
https://www.jpnsport.go.jp/hpsc/Portals/0/resources/hpsc/katudousaikaiguideline.pdf
●一般社団法人日本バレーボールリーグ機構
「新型コロナウイルス対策ガイドライン」
https://www.vleague.jp/common/pdf/covid19_guideline_9th_20210210.pdf

●一般社団法人Ｔリーグ
「Ｔリーグ新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」
https://saas.actibookone.com/content/detail?param=eyJjb250ZW50TnVtIjo4MDk2OX0=&detailFlg=1&pNo=1